

4 指導と評価の一体化に向けて

ここでは、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校外国語・外国語活動」（国立教育政策研究所 令和2年3月）の参照ページを（小P0）で、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校外国語」（同上）の参照ページを（中P0）で示しています。

学習指導要領では、目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、観点別学習状況の評価については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されました。各教科においてはこの3観点に基づき、**学習指導要領で定められた資質・能力が、児童・生徒に確実に育成されているかを評価**します。「児童・生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、**教師の指導改善、児童・生徒の学習改善を図るために、指導と評価の一体化を実現する**必要があります。

学習評価については、**小・中の円滑な接続**の観点からも、小学校・中学校双方において十分理解し、外国語科の指導に生かすことが大切です。

(1) 各教科等における資質・能力の三つの柱の関係（小学校・中学校共通）

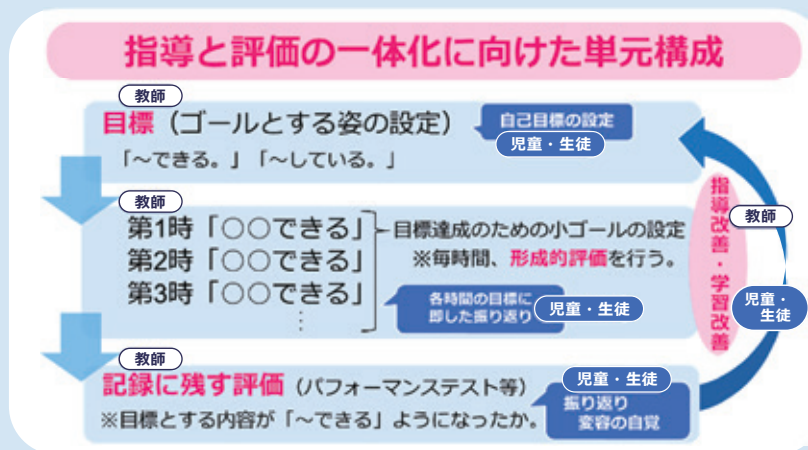
三つの資質・能力はそれぞれ別々に存在しているのではなく、相互に関連しており、**一体的に育成する**ことが求められます。例えば、「学びに向かう力、人間性等」については、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成する過程を通して育成する必要があります。学習評価を行う際には、このことを十分に踏まえることが重要です。



(2) 指導と評価の一体化に向けた単元構成の工夫（小学校・中学校共通）

指導と評価の一体化を図るためには、「～できる」の形で単元の目標を設定し、その実現に向けて指導するとともに、「～できる」ようになったかどうかを評価する場面（「記録に残す評価」を行う場面）を設定する必要があります。「**評価すること（「～できる」児童・生徒の姿）に向けて指導する」「指導したことを評価する**」ことを常に意識しましょう。

なお、授業のねらいに即して児童・生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かす、いわゆる「**形成的評価**」は**毎時間必ず**行います。

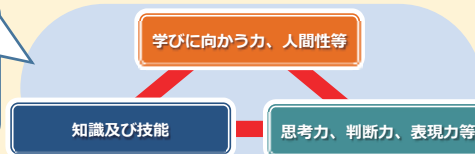


コラム3

3 観点との関係（中学校）

「表現の領域」及び「理解の領域」と3観点との関係を整理すると、以下のようになります。

育成を目指す資質・能力の三つの柱との関係にも注目しましょう。



「表現の領域」（「話すこと」「書くこと」と3観点との関係

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語使用の正確さを評価	表現内容の適切さを評価	基本的に「思考・判断・表現」と一体的に評価

基本的に、1回のパフォーマンステストにおいて、**3観点を一体的に評価**します。

「理解の領域」（「聞くこと」「読むこと」と3観点との関係

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話されたり書かれたりしている英文の内容を聞き取って/読み取っているかを評価	必要な情報、概要、要点を捉えているかを評価	基本的に「思考・判断・表現」と一体的に評価

基本的に、1回のペーパーテスト等において、**「知識・技能」と「思考・判断・表現」は別々に評価**します。（「知識・技能」と「思考・判断・表現」それぞれを評価するために適した問題を設定します。）

(3) 学習評価の方法 – 「表現の領域」・「理解の領域」における観点別学習状況の評価 –

外国語科においては、「表現の領域」（「話すこと」「書くこと」と）と「理解の領域」（「聞くこと」「読むこと」）に分けて、各観点の評価方法を理解する必要があります。また、評価する時期や場面を精選し、主に学期末や単元末など、それぞれの**実現状況を把握できる段階（児童・生徒ができるようになった段階）で「記録に残す評価」を行う**ことが重要です。

「記録に残す評価」の方法（例）

小学校	「表現の領域」「理解の領域」：主に言語活動における行動観察やワークシート等の記述分析を通じて評価
中学校	「表現の領域」：主に単元末や学期末のパフォーマンステスト及び活動の観察の結果（ペーパーテスト等*の結果を加味）を通じて評価 「理解の領域」：主に学期末のペーパーテスト等の結果（活動の観察の結果を加味）を通じて評価

* 「ペーパーテスト等」には、言語活動の際に使用するワークシートを含みます。

「表現の領域」における観点別学習状況の評価（中学校） ～パフォーマンステスト等による評価～

知識・技能 (中 P30、47、71)	<p>「英語使用の正確さ」を評価します。技能の側面だけでなく、知識の側面も一体的に評価します。</p> <p>知識 「英語の特徴やきまりに関する事項」に記載されている内容を理解している状況を評価します。</p> <p>技能 実際のコミュニケーションにおいて、事実や自分の考え、気持ちなどを表現したり伝え合ったりする技能を身に付けている状況を評価します。使用する言語材料の提示がない状況においても、それらを用いて表現することができる技能を身に付けているか否かについてを評価します。</p>
思考・判断・表現 (中 P30、47)	<p>「表現内容の適切さ」を評価します。この時、発話の正確さなどに惑わされることなく発話内容から判断することが大切です。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて事実や自分の考え、気持ちなどを表現したり伝え合ったりしている状況を評価します。</p>
主体的に学習に取り組む態度 (中 P30、47、79)	<p>「思考・判断・表現」と基本的には一体的に評価（「思考・判断・表現」が「b」ならば、「主体的に学習に取り組む態度」も「b」とするなど）しつつ、言語活動への取組状況を観察し、その結果を加味します。ただし、「主体的に学習に取り組む態度」が必ずしも発話や筆記等に表れない場合もあるため、そのような段階にある生徒では、「思考・判断・表現」の評価と一致しない*こともあり得ます。</p> <p>* 例えば、学期末等の総括の段階で「b」と「c」のどちらもあり得る場合に限り、生徒が授業の振り返りで記述している内容が、授業における言語活動への取組に実際に表れていれば、「思考・判断・表現」と一体的に評価した結果が「c」であったとしても、「b」と総括することも考えられるということです。なお、実際に態度に表出されていることが重要であることに鑑み、言語活動に粘り強く取り組むことができている（「a」または「b」）場合は、振り返りの記述内容によって評価を変えることはしません。</p>

「理解の領域」における観点別学習状況の評価（中学校） ～ペーパーテスト等による評価～

知識・技能 (中 P30、(61)、(69)、(71))	<p>話されたり書かれたりしている英文の内容を聞き取って/読み取っているかを評価します。</p> <p>知識 「英語の特徴やきまりに関する事項」に記載されている内容を理解している状況を評価します。</p> <p>技能 実際のコミュニケーションにおいて、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている状況を評価します。</p>
思考・判断・表現 (中 P30、56、63)	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、「必要な情報」「概要」「要点」を捉えている状況を評価します（ペーパーテスト等では、目的や場面、状況などを示した問題を作成します。）。</p>
主体的に学習に取り組む態度 (中 P30、79)	<p>「思考・判断・表現」と基本的には一体的に評価しつつ、言語活動への取組状況を観察し、その結果を加味します。基本的に、「表現の領域」と同じ考えに基づき評価します。</p>

コラム4

各観点の評価情報を得る方法（中学校）

評価情報を得る方法はこれまでと大きく変わりません。

ただし、一つの評価場面（パフォーマンステスト等）において、複数の観点からその活動等を評価することに留意する必要があります。

ペーパーテスト等の結果（活動の観察の結果を加味）

パフォーマンステストの結果（活動の観察やペーパーテスト等の結果を加味）

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	観点別評価	評価
知識・技能	ペーパーテスト等		面接等	スピーチ等	エッセイ等		
思考・判断・表現	ペーパーテスト等		面接等	スピーチ等	エッセイ等		
主体的に学習に取り組む態度	ペーパーテスト等		面接等	スピーチ等	エッセイ等		

生徒の自己評価（振り返りの記述等）を参考
(中P81、82)

＜生徒に振り返りをさせる際の留意点＞

- ・ 振り返りの記述が言語活動への取組に実際に表れているかを必ず見取った上で評価します。
- ・ 単元の目標や本時の目標に応じて「～できる」を達成できたかどうかを振り返らせます。
- ・ 最初から自由記述にせず、目標の達成等について□に☑を入れさせる形式にする方法もあります。

4 指導と評価の一体化に向けて

(4) 単元の目標・評価規準の例（小学校・中学校の「話すこと【やり取り】」）

各学校においては、「外国語科の目標」「五つの領域別の目標」「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準」等を踏まえ、**学年、単元のそれぞれにおける目標と評価規準を作成**します。

小学校「話すこと【やり取り】」の例（第5学年）（小P45）

目標	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合ったりできる。		
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<知識> 月日の言い方や、I like/want ～. Do you like/want ～? What do you like/want? When is your birthday?、その答え方について理解している。 <技能> 誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、I like/want ～. Do you like/want ～? What do you like/want? When is your birthday? 等を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

中学校「話すこと【やり取り】」の例（第3学年1学期）（中P47）

目標	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について書かれた英文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる。		
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 ・野菜の歴史について考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題（野菜の歴史）に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題（野菜の歴史）に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合おうとしている。

※他の領域の事例については、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の以下のページを参照してください。

小学校	「聞くこと」（小P45）、「読むこと」（小P77）、「話すこと【発表】」（小P58、P65、P77）、「書くこと」（小P65、P77）
中学校	「聞くこと」（中P63）、「読むこと」（中P56）、「書くこと」（中P71）

参考資料一覧

● 国が作成した資料 ◆ 東京都教育委員会が作成した資料

- 「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」（文部科学省 平成29年6月）
- 『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校外国語・外国語活動』（国立教育政策研究所 令和2年3月）
- 『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校外国語』（国立教育政策研究所 令和2年3月）
- ◇ 「小学校第5・6学年 外国語指導資料 DVD」（令和元年7月）
- ◇ 「小学校第3・4学年 外国語活動指導資料 DVD」（平成30年3月）
- ◇ 「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料（DVD）」（平成30年3月）
- ◇ 「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料（冊子）」（令和2年1月）
- ◇ 「子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む指導と評価の一体化を目指して」（令和2年9月）
- ◇ 「授業改善や学習指導に関わる先進情報等の通信（メール・マガジン）Scrum ースクラムー」第86号（令和2年9月30日）、第87号（令和2年12月18日）
- ◇ 「中学校英語『話すこと』に関する能力育成のための映像資料・指導資料」（令和2年2月）
- ◇ 「児童・生徒の発話を引き出し思考力を高める外国語指導に向けて～東京都英語村 TOKYO GLOBAL GATEWAY での実践から～」〈本冊〉及び〈別冊付録〉（令和2年11月）

スクラムへはこちらの「◆学校の先生方へ」から

